

手柄山温室植物園だより
シリーズ：姫路市に見られる身近な植物

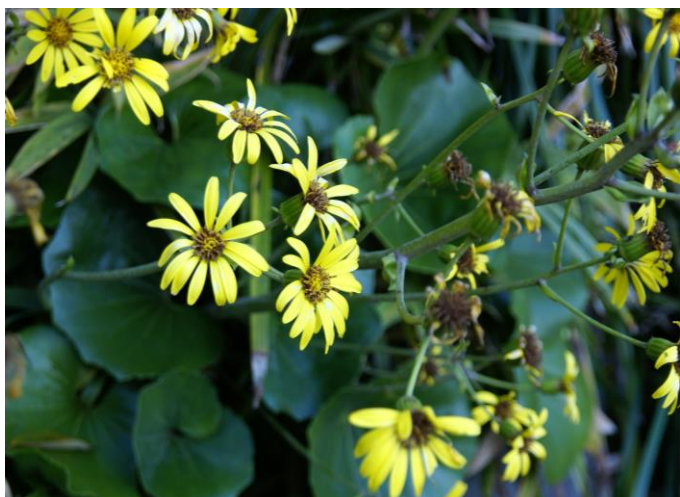
20. ツワブキ（キク科ツワブキ属）

Farfugium japonicum (L.) Kitam.

2014年12月

海岸や海岸付近の崖、岩上に生育する根茎が太く丈夫な常緑性の多年草です。葉は根生し、長い柄があり長さ10～38 cm、葉身は厚く光沢ある腎心形で長さ4～15 cm、幅6～30 cmで縁は不ぞろいな微凸があります。若葉は灰褐色の長毛があり、のちにほとんどの毛はなくなります。花は10～12月に高さ30～75 cmの太い花茎に径4～6 cmの頭花を散房状につけ、花柄は長さ1.5～7 cm、舌状花は黄色で花冠は長さ3～4 cm、幅6 mm、筒状花は長さ11～12 mm、そう果は有毛で長さ5～6.5 mmで条があり、冠毛は汚白色で長さ8～11 mmです。分布は本州（大平洋岸は福島県以南、日本海岸は石川県以南）、四国、九州、沖縄、朝鮮、台湾、中国で、兵庫県では淡路島に多く、瀬戸内海、日本海沿いに見られます。品種としては九州西部に全体が大形のオオツワブキ（*Farfugium japonicum* (L.) Kitam. forma *giganteum* (Sieb. et Zucc.) Kitam.）が生育しており、ときに庭などに植栽されます。

ツワブキは栽培も容易で、園芸種としてよく利用されます。古典園芸のひとつで、育種により葉に斑が入った園芸品種や茎葉に奇形が生じた多くの品種を愛でていました。また、古くから若い茎は食用にしたり、根茎は民間薬に利用されたりしています。



ツワブキ



花の拡大